

平成 20 年度 第 1 回千葉県発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

日時：平成 20 年 7 月 30 日（水）14:00～

場所：千葉県総合保健医療センター4 階会議室

【出席者】

- （委員） 杉田座長、阿部委員、久保田委員、中田委員、夏目委員、野口委員、三橋委員、山科委員、伊原委員、鈴木（正）委員、日色委員、金木委員、山田委員、岡田委員、植草委員、神津委員
- （オブザーバー） 岩村療育センター事務局長
- （事務局） 発達障害者支援センター：加瀬相談員、仲村相談員
障害者自立支援課：大木課長、柴田主幹、山田課長補佐
北島主事、岡本主事、柴崎主事

【議題】

- 1 千葉県発達障害者支援連絡協議会の設置・運営について
- 2 千葉県発達障害者支援体制整備検討委員会報告書
「千葉県における発達障害者支援のあり方について」
- 3 千葉県発達障害者支援センターにおける支援実績について

【配布資料】

- 「千葉県発達障害者支援連絡協議会」設置・運営について
- 「千葉県における発達障害者支援のあり方について」
（千葉県発達障害者支援体制整備検討委員会報告書）
- 支援実績報告書（平成 19 年度および平成 20 年度 7 月まで）

【議事要旨】

1 「千葉県発達障害者支援連絡協議会」設置・運営について

配布資料に基づき、事務局から本連絡協議会の設置目的等の説明を行った。

<主な意見>

特になし。

2 「千葉県における発達障害者支援のあり方について」

平成 19 年 3 月から計 5 回開催した「千葉県発達障害者支援体制整備検討委員会」の報告書を配布し、事務局から概要説明を行った。

<主な意見>

- 発達障害児者について、ライフステージごとに関係機関が変わるため、その支援が途切れる傾向にある。個人情報の問題があると思われるが、どこまで対応可能なのか。（障害児等療育支援事業関係委員）
- 個人情報については、本人または保護者の同意を得られれば、情報提供は可能である。（事務局）

- 他市では、手帳制度のようなものがあると聞いており、関係機関での情報が共有され、支援の一貫性が確保されているところもある。千葉市ではできないのか。（障害者団体関係委員）
- 次期5カ年計画への位置づけを検討したい。（事務局）
- 是非、千葉市においてもサポートブックのようなものを作成し、関係機関による一貫した支援体制を確保し、発達障害者支援の先進市となしてほしい。（座長）

3 千葉市発達障害者支援センターにおける支援実績について

平成20年1月に開設した本センターについて、平成19年度と平成20年度（4～7月まで）の支援実績を報告した。

<主な意見>

- 実際の相談に係る対応の仕方を教えてほしい。（保育園関係委員）
- まずは電話相談をいただき、概要を伺ったあとに、支援担当者（発達関係や就労関係等）が詳細の話を聞くこととしている。継続して支援が必要と判断した場合には、予約制により対応している。対応職員の資格は、社会福祉士、臨床心理士、ジョブコーチである。（事務局）
- 就労支援の相談者に、養護学校卒業生はいるのか。（教育関係委員）
- 市内の養護学校卒業生は、いまのところ実績ではない。大学生の就職活動期や、実際に就労している対象者の家族からの相談が多い。（事務局）
- センター設置以前について、アスペルガー症候群等の発達障害の相談があった場合には、どのような対応をしていたのか。（座長）
- CAS（千葉県発達障害者支援センター）を紹介していた。（事務局）
- 発達障害者の就労相談を受けており、仕事がうまくいかなくて悩んでいるようである。同様の悩みを抱える人たちで、その悩みを共有できるような、話をできるような場を作れないか。（雇用関係委員）
- 検討する。（事務局）
- 発達障害者支援センターについて、堅苦しい名称では相談者が敬遠してしまう傾向にあるので、愛称を検討してはどうか。（障害児等療育支援事業関係委員）
- 必要に応じて対応を検討する。（事務局）

4 その他

特になし。

<主な意見>

- 本連絡協議会の委員の中に、養護教育センター等の教育関係の職員を加えてほしい。（障害者団体関係委員）
- 了解。検討する。（事務局）

※ 次回開催は3月下旬を目処に開催することとし、閉会とした